

ユネスコ世界遺産センター 御中
国際自然保護連合 (IUCN) 世界遺産プログラム 御中

知床世界自然遺産における携帯電話基地局整備問題に関する緊急通知書

私たち、日本自然保護協会および北海道自然保護協会は、世界遺産条約履行のための作業指針 174 項に関連して、知床世界自然遺産の状況について緊急の報告を行います。

日本政府の支援と許可のもと、携帯電話事業者が携帯電話通信基地の整備計画を着手しようとしています。

私たちは、知床世界自然遺産の顕著な普遍的価値 (OUV) に与える影響について強い懸念を表明します。また、本件は、OUV に影響を及ぼす新規の工事として通知することを求めた履行作業指針 172 項に該当するものであり、諮問機関 IUCN も交えて世界遺産センターが日本政府との間に、協議し、課題解決をすべきものと考えています。

1. 携帯電話通信基地の整備計画の概況

2022 年 4 月に起きた観光船の沈没事故により 20 名が死亡、6 名が行方不明となった。そのため、地元要望を受け、総務省や環境省などは知床半島における携帯電話通信の強化をすすめ、その整備計画について携帯電話通信事業者に財政的支援や国立公園の許認可をすでに行っている。一方、国土交通省は船舶の非常時の連絡手段として法定無線設備 (携帯電話を除外) を原則義務化した。4 ヶ所の整備計画のうち、特に問題となるのは知床岬灯台エリアの計画である。

立地：世界自然遺産 A 地区 (将来にわたり厳正な保全管理を図る地域)、国立公園特別保護地区 (特別地域内で特に嚴重に景観の維持を図る必要のある地区)

計画：264 枚の太陽光発電施設 (蓄電池等関係施設を含む) を整備し、2 km の送電ケーブルを埋設して、知床岬灯台の壁面にアンテナを設置する。工事の総敷地面積は 26,094 m² で土地改変面積は 3,970 m² に及ぶ。

現況：5 月から資材搬入が始まっていたが、研究者からオジロワシの営巣地があるの指摘を受け、一時中断している。環境省が 5 月 23 日に繁殖状況調査を行った。6 月 7 日の科学委員会で環境省から事業の詳細説明と、オジロワシに関して繁殖未確認との調査の報告があり、OUV への影響が議論された。科学委員会は環境省と事業者に対して、工事を中断し、植生やオジロワシの繁殖への影響調査と、地元での事業の必要性に関する再検討を要請した。

2. 顕著な普遍的価値 (OUV) への潜在的影響への懸念

1) 今年、繁殖を示唆する行動の目撃報告もあるなかで、環境省による 1 日間の現地観察

では不十分である。太陽光発電施設は繁殖つがいの高利用域にあると考えられ、建設工事が採餌行動を妨げる懸念がある。さらに、建設後は保守管理のために人が立ち入る頻度が増えると予想され、オジロワシの繁殖や生息状況に悪影響を及ぼし、営巣ペアがこの地域から姿を消す可能性が懸念される。

- 2) オジロワシを含む希少野生生物に関する聞き取り調査や現地調査を計画段階で、環境省が事業者に指示せず、環境影響評価が行われずに環境省が許認可を与えたことは大きな問題である。
- 3) 計画地は、環境省の国立公園特別保護地区、林野庁の森林生態系保護地域に指定されているにも関わらず、3,970 m²に及ぶ土地改変が行われる。このような許認可は、今後の保護地域制度の運用を歪める最悪のケースとなる。
- 4) 知床岬の厳しい気象条件やアクセスの悪さから、太陽光パネルによる火災や延焼の危険性があり、将来的に知床世界遺産の普遍的価値に大きな影響を与える。

2024年6月12日

公益財団法人 日本自然保護協会
理事長 亀山 章

一般社団法人 北海道自然保護協会
会長 在田 一則